



- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

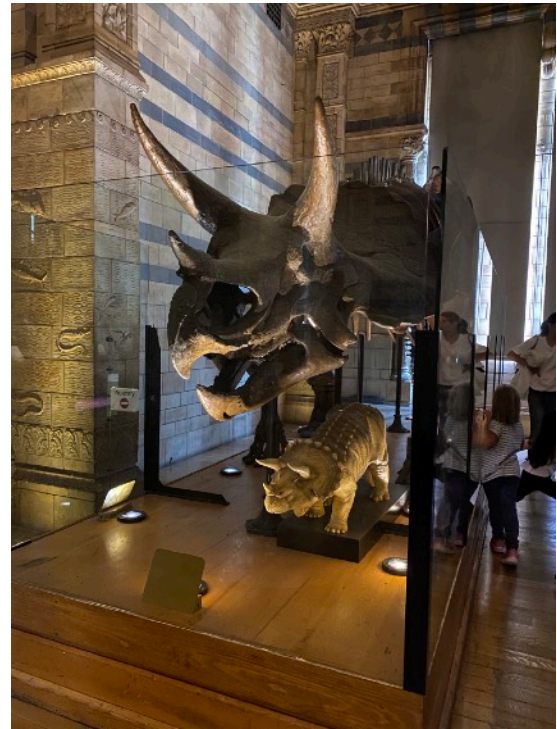
第8回目校費留学レポート目次

- Pre-Collectionの続きに向けて

Pre-Collectionの続きに向けて

今月からサマーホリデーに入りました。前回のプレコレクションでは課題が多かったため、気を取り直し自分のクリエイションの見直しから始めました。卒業コレクションはただのコレクションではなく、将来のコレクションにも繋がる自身のプラットフォーム作りでもあると思っています。そういった面で、今後の制作にも通ずるようなテクニックや考え方がまだぼんやりしていたと反省しました。デザインの面では機能面や、生産方法、素材の調達先など細かい部分までアプローチが届いていませんでした。

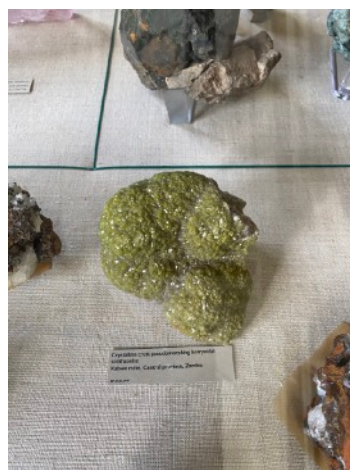
今月は頭の中を空っぽにして、インプットを今までよりも多くして過ごしました。外の世界にあるものに触れて見えてくるものを探ることから始めています。V&Aミュージアムや大英博物館、ロンドン自然史博物館、ジャパンセンターなどのギャラリー、ミュージアムからDover Street MarketやMachine A、ブランドではNike, Stone Island, Arc'teryxなどスポーツウェアのお店に何度も訪れ、歴史的遺産に触れたり、実際に売られている服のディテールを観察しました。



V&Aミュージアム、大英博物館、自然史博物館で自分にとって印象的だったのは恐竜の化石です。日本の博物館にあったものよりも数多く大きさも大きいものがたくさんありました。古代にこのような生き物が生きて存在していたと考え、子供の頃に膨らましていた夢が蘇りました。この観た時のワクワクと高揚感は忘れないでいたいです。



これはイースター島のモアイ像です。初めて背中をみたのですが、モアイ像は素朴なイメージだったのでその神秘的な姿に驚きました。鳥が描かれており、当時の信仰の現れだとされています。モアイの身体にさらにモアイの物憂げな表情なども描かれており、自分の感覚ではとても奇妙に見えてしまいました。



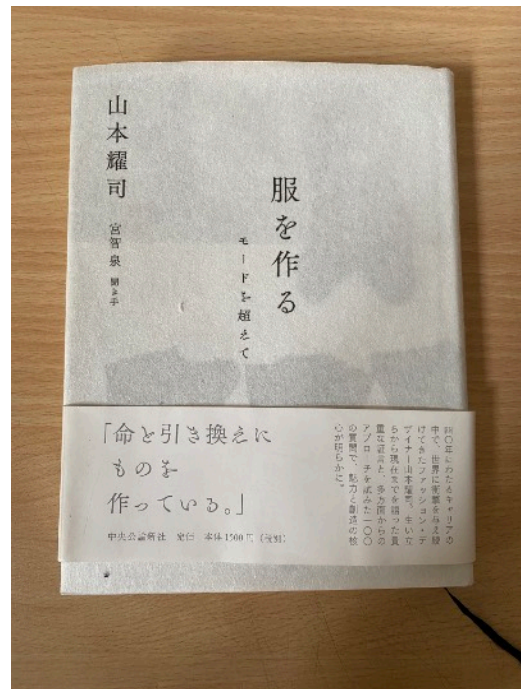
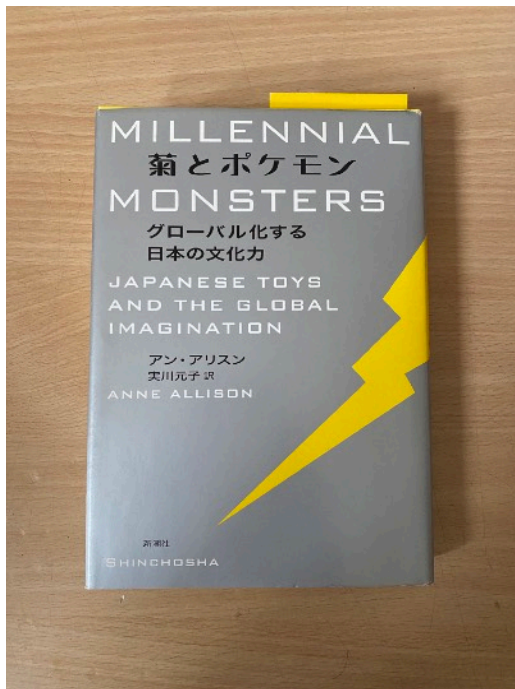


自然史博物館のEarth's Treasury では鉱物を中心としたコレクションとなっており、そのカラーリングに驚きました。自然が作り出した色合いとテクスチャは今後の自身のコレクションのカラーパレットの参考にしたいと思ったので気になった石の写真を撮り集めました。





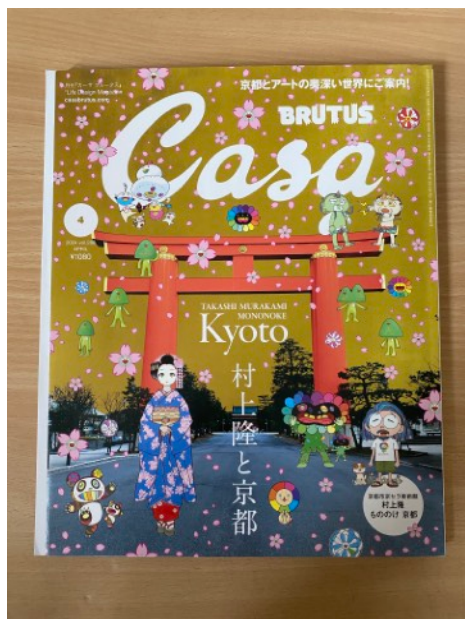
Dover Street Market, Machine A, Nike, Stone Island, Arc'teryxでは、自身のデザインのインスピレーションとなっているスポーツウェア、アウトドアウェアを中心に観てまわりました。無駄がなく、テクスチャーや色合い、服の構造や機能面、備品の使い方など参考にしたい部分が多くありました。



これは日本から送ってもらった「菊とポケモン:グローバル化する日本の文化力/ Anne Allison 著」という、アカデミックな視点で日本のポップカルチャーについて書かれている本です。自身が幼少期から影響を受けて育ったアニメやマンガなどのカルチャーが、日本だけではなく、世界でどのような社会的意味をもっているか探るのにも参考にしています。山本耀司さんによる「服を作る、モードを越えて」という本ではデザイナー本人の生々しい部分や苦難がみれて、その姿勢と人生がモチベーションに繋がりました。



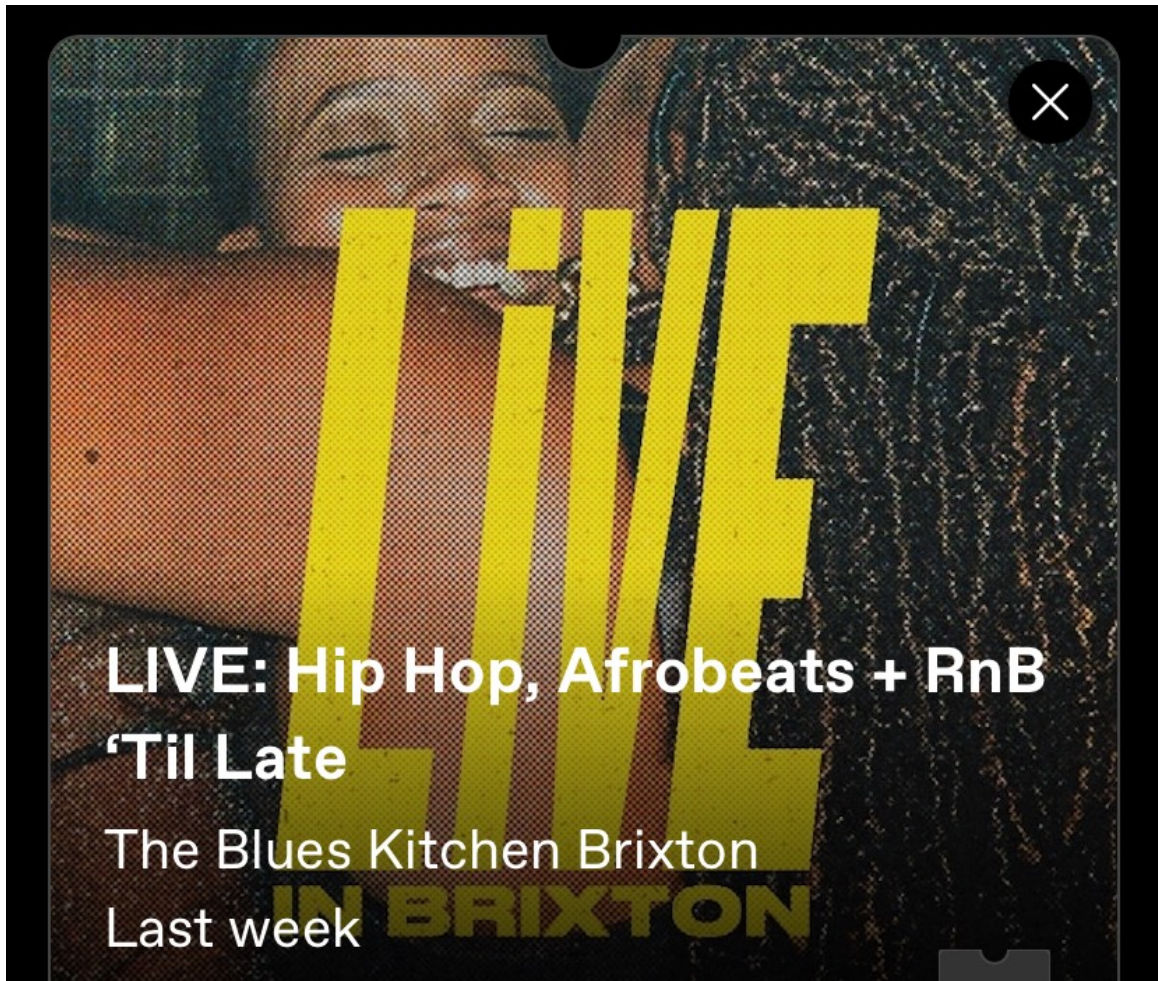
自身の国の伝統模様や歴史が細かく書かれた「日本の装飾と文様」という本はジャパンセンターで購入しました。歴史を読み取り現代にアップデートできる要素がないか考えるための資料として扱っています。



これは、日本にいる弟が京都の「村上隆 もののけ京都」の展覧会を観に行ったお土産として日本から送ってもらいました。自分は過去に実際カイカイキキで働かせていただいたので、改めて出来上がった作品の物量、解説とストーリーテリングを読んで感銘を受ける部分がありました。そして現代アートを次々と生産するその会社のシステムに自分は大きな影響を受けました。スーパーフラットという概念の元で、絵画の要素だけでなく、働き方、作り方においてもフラットな「システム」の部分です。このように自身の哲学に乗っ取ってものづくりを行うシステムを作ることとは将来ブランドを創る上、デザインする上でとても大事なことのようこの本を読んで改めて思いました。そして生産方法や素材調達、人物像、自身のアイデンティティからサステナブルもしくはリジェネラティブなどのセントマーチンで求められている様々な課題の多さも、システムを運営するデザイナーとして細部まで目が行き届いているのか求められているのではないかと思います。



また「The Art of Spirited Away」では宮崎駿さんによる生のドローイングや制作プロセス、キャラクターデザインを見ることでコレクションのストーリー、人物像のクリエイションに繋がるようなプロセスを参考にしました。



週末には、毎週金曜日に行われているLIVEというイベントに行きました。Brixton で行われているものでHip hopやAfrobeats、RnBを中心としたパーティですが、日本と違って常にみんな大合唱の状態でした。制作のことばかりの日々だったので爆音の中踊りまわる環境はストレスの発散にもなりました。

今月を振り返って

プレコレクションが上手くいかず、精神的にもとても落ち込んでいましたが、時間が経つことで冷静になり、様々な物に触れることで今までとは少し違った生活ができた月でした。来月はイタリアに数日訪問し、国際ファッション専門職大学の海外実習の時にお世話になった方々とも会う予定です。デザイナーの方のスタジオや工場などを観て周れたらと思っています。それまでに自身のコレクションがある程度固まっているように、ポートフォリオにまとめて持っていけたらと思っています。

以上、6月分のレポートとさせていただきます。